月刊しばうら 2024年11月号

令和６年度　農林水産祭参加　全国肉用牛枝肉共励会

農林水産大臣賞に 群馬県 (株)加藤牧場 様
枝肉単価 １６,６８６円で (株)丸富商店 が落札

令和６年度全国肉用牛枝肉共励会が、１０月２２日から１０月２５日までの４日間にわたり、東京食肉市場に出荷実績を持つ１道１都１府２９県より選抜された第一部 乳用去勢牛及び交雑去勢牛70頭、第二部 和牛去勢牛２６７頭、第三部 和牛牝牛１６３頭の合計５００頭で開催されました。名誉賞に輝いた第二部 和牛去勢牛の３２９号は、群馬県から出品された（株）加藤牧場様の出品牛で、父が「福之姫」、母の父が「安福久」、出生地が北海道の日高産で、月齢３０ヶ月、生体重８２６kg、枝肉重量５８２ｋｇ、歩留７０．５%、格付Ａ５（ＢＭＳＮｏ．１２）、ロース芯の面積が１２６ｃ㎡、バラの厚み９．８㎝、皮下脂肪の厚さ１．７㎝で、全体に肉付き、均称の素晴らしい体型で、モモのサシ抜けが良好で、ロース芯が充実し、肉色・光沢に優れ正肉歩留まりの良い、名誉賞に相応しい枝肉でありました。枝肉単価は１６，６８６円で、（株）丸富商店により落札されました。名誉賞に輝いた（株）加藤牧場様は、農林水産大臣賞、東京都都知事賞を始め、数々の名誉ある褒賞を受賞されました。また、各部の最優秀賞は、第一部 栃木県の（株）手塚畜産様の５３号牛が、枝肉単価４，５０２円で（株）丸富商店、第二部 青森県の（有）金子ファーム様の１６１号牛が枝肉単価１５，０００円で（株）中村畜産、第三部 鹿児島県の（株）髙崎ファーム様の５５４号牛が１３，００２円で（株）丸富商店により購買されました。部門別の成績は下記の通りです。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第１部 乳用・交雑去勢	70	953	1,155	830	624	780	530	65.5	71.7	63.2	1,629	4,502	1,200
第２部 和牛去勢	264	850	1,044	664	587	723	433	69.1	74.7	63.6	2,679	16,686	1,914
第３部 和牛牝	163	720	891	603	489	585	395	67.9	72.5	61.9	2,857	13,302	1,963

本共励会の出品牛は５００頭でしたが、1 頭が検査保留、1 頭が輸送中死亡、1 頭が欠場となり上場できませんでした。また、本共励会の出品規則第６条「出品牛の資格」により、和牛去勢の部４８頭、和牛牝の部で６頭の合計５４頭が審査対象外となりました。審査の対象となったのは４４３頭でした。

牛肉営業部

＜10 月の相場動向＞

10 月初旬に気温の高い日が続いたことやスライス材へのシフトが遅れたことなどから全体的に荷動きが鈍かった。相場は和牛・交雑はほぼ前月並み、対前年比では和牛・交雑ともに低等級で前年比を上回ったが、消費者の節約志向が継続しているからか、比較的低価格の等級で堅調な相場展開となった。

また訪日外国人旅行者数については、1～9 月までの累計推計値で 2,688 万人となり、昨年の年間実績である 2,507 万人を突破したが、消費行動の変化もあり牛肉消費の追い風とはなっていない。

和牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,497 円	-59 円	97.7%	+72 円	103.0%
A4	2,103 円	+20 円	101.0%	+27 円	101.3%
A3	1,959 円	+123 円	106.7%	+44 円	102.3%
A2	1,697 円	+78 円	104.8%	+23 円	101.4%

交雑去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,693 円	+51 円	103.1%	-65 円	96.3%
B3	1,571 円	+131 円	109.1%	-30 円	98.1%
B2	1,454 円	+200 円	115.9%	+26 円	101.8%

乳牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	－	－	－	－	－
B2	－	－	－	－	－

＜11 月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、9 月の輸入量は前年同月比 3.1%増の 3 万 8,177ｔで、うちチルドは 0.4%増の 1 万 5,402ｔと上回った。フローズンは前年同月比 4.9%増の 2 万 2,775t と大きく上回った。

農畜産業振興機構によると 10 月の牛肉予測輸入数量は、前年同月比 6.0%減の 3 万 7,900t(チルド 11.1%減･冷凍 2.3%減）で大幅な減少を予測している。

11 月は前年、米国産の現地相場高騰の影響で輸入量が少なかったことから、11.0%増の 3 万 7,100t（チルド 0.4%増・冷凍 19.3%増）で、チルドは前年同月を若干上回ることが予測され、同じくフローズンも大幅に上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		9 月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,242	7,494	110.0%
	米国	5,802	6,617	87.7%
	その他	1,358	1,226	110.8%
	合計	15,402	15,337	100.4%
フローズン	豪州	9,725	9,484	102.5%
	米国	7,646	5,668	134.9%
	その他	5,404	6,555	82.4%
	合計	22,775	34,949	104.9%

出典：食肉速報

＜11 月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による 11 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 99.4%の 10 万 8,700 頭で、品種別にみると和牛は 2.6%減の 5 万 4,200 頭、交雑種は 10.6%増の 2 万 7,100 頭、乳用種は 5.6%減の 2 万 6,400 頭と予測している。

東京食肉市場の 11 月のと畜頭数は 8,746 頭を予定しています。

＜11 月の牛枝肉相場見通し＞

10 月の天候不順の影響から葉物野菜も高いままであり、食材全般の割高感が消費マインドを低下させている状況が続いるため、消費者の節約志向は続くと考えられる。量販店での販売は苦戦が予想されるが、お歳暮などの仕入れについては銘柄牛を中心に引き合いが高まると予想される。

年間の最大需要期である年末年始を控え、手当て買いも月の後半からは始まってくることから相場は上がっていく時期ではあるが、上り幅は例年に比べて緩やかなものになると考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500～2,700	B4	1,650～1,800
A4	2,200～2,400	B3	1,550～1,650
A3	2,000～2,150	B2	1,400～1,550
A2	1,750～1,900		
乳牛去勢			
B3	1,050～1,150		
B2	950～1,050		

豚肉営業部

9 月の全国と畜頭数は、127 万 7,605 頭(前年同月比 1.2%減)と前年をわずかに下回った。また、9 月の豚肉通関数量は 7 万 8,712t（前年同月比 27.4%増）と前年同月から３割近い増加となった。内訳はチルドが 3 万 296ｔ（13.5%増）、フローズンは 4 万 8,417t（38.0%増）とそれぞれ前年同月から大幅に増加した。

＜10 月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1 日	64,100	601	579	971
2 日	62,100	609	600	630
3 日	61,100	601	579	758
4 日	57,600	599	582	1,037
7 日	64,000	617	601	824
8 日	65,200	642	624	966
9 日	65,400	650	635	860
平均	62,786/日			864/日

10 月に入り気温が下がり始めたことで量販店では鍋物需要が本格化し、バラなどのスライス商材の引き合いが強まり始めた。末端消費は底堅く、相場は 600 円絡みの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10 日	65,000	628	615	892
11 日	64,900	633	617	1,080
15 日	73,500	645	629	792
16 日	68,200	637	617	1,135
17 日	69,200	611	586	1,033
18 日	66,000	600	580	1,157
21 日	65,600	587	575	809
平均	67,486/日			985/日

3 連休の特売に向けた手当て買いによって相場は高値で推移した。輸入ポークの在庫水準は低く、為替が再び円安に振れたことから国産物への需要は底堅かった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22 日	66,600	607	590	946
23 日	65,600	612	601	797
24 日	66,700	618	593	873
25 日	61,600	623	597	1,102
28 日	63,400	619	603	804
29 日	67,500	631	609	997
30 日	65,000	619	602	804
31 日	67,700	620	605	743
平均	65,513/日			883/日

全国的に出荷頭数は増えているものの、この時期としては多い状況ではなかった。関東でも気温が低くなったことで鍋物需要によるスライス商材の引き合いが強まり相場は 600 円台と高値で推移した。

＜11 月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和 6 年 11 月の肉豚出荷予測では 146 万 8,000 頭（前年比 99.0%）と予測している。

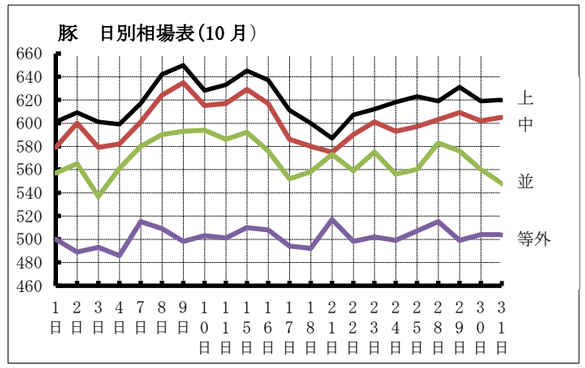
当市場の 11 月集荷予定せり頭数は 1 万 9,000 頭、1 日あたりでは約 950 頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると 11 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 8 万 2,600t（同 110.4%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 1,100t（同 87.2%）、冷凍輸入量は 5 万 1,500t（同 131.6%）と予測。

冷蔵品輸入量は為替や現地相場高の影響等から低調に推移し、輸入量の殆どを占める北米産とメキシコ産輸入量の減少が見込まれることから、前年同月をかなり大きく下回ると予測する。また 3 ヵ月平均も前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は価格優位性からブラジル産や EU 産の輸入量増加が見込まれることなどから、前年同月を大幅に上回ると予測する。同じく 3 ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

例年 11 月は出荷頭数が多くなる時期で、現状の実需が強くならない限り豚肉相場が上昇する可能性は低い。

冷凍物は予想外に相場高が続いたことで凍結玉の仕込みができなかったとみられ、お歳暮やおせち向けの引き合いが強まれば中部位、スソ物の凍結在庫がひっ迫する可能性もありそうだ。末端消費は芳しくない状況だが、輸入チルド品のコスト上昇や、猛暑の影響による野菜価格の高騰、消費者の節約志向の高まりから、スソ物は引き合いが継続して強くなることが予想される。今後は気温の低下に伴って鍋物需要が本格化するとみられ、バラなどのスライス材を中心に荷動きが良化することで、相場に影響が出る可能性もある。

以上のことから当市場の上物平均価格は 550 円前後、中物平均価格 530 前後の展開と予測する。